

(様式4)

◆ (氏名) 齋藤ひろみ

<所属・職名>

東京学芸大学教職大学院 教育実践創生講座 教授

<略歴>

小・中学校の教諭として教壇に立ったのち、中国での生活を経験。

帰国後、民間の日本語学校で日本語教師として働き始める。

中国帰国者定着促進センターにおいて、小中学生対象の日本語教育に取り組む。東京学芸大学国際教育センターにて、国内の外国人児童生徒教育に関する研究・調査活動を本格化。

同大学教育学部に所属し、教員養成課程や現職教員対象の研修で「多文化教員」の育成・養成に取り組む。現在、同大学教職大学院の専任教員として、教師教育に従事。2021年6月より公益社団法人日本語教育学会会長

<これまでの研究活動、外国人児童生徒等教育に関する経験など>

文化間移動をする子どもたちのライフコースを伴走するような教育・支援のあり方を探るために、日本語教育の方法、特に「内容（教科等）と日本語の統合学習」の実践とその成果について、現場を巡りながら検討を重ねている。また、日本生まれの子どもたちのリテラシーの発達について、作文の分析を通して、多面的に捉えるために調査研究を重ねてきた。現場の先生方との関わりとしては、日本語指導担当・外国人児童生徒担当教員・支援員の方の研修会にお邪魔し、子どもの見取り・実践・そして教師としての力量形成について、現場の先生方とともに考えている。

- ・2012年より編集長として、「言語教育実践イマ×ココ」（ココ出版）発行。現在第7号を編集集中。
- ・2016年より「子どもの日本語教育研究会」を立ち上げ事務局長として運営。年間3回の実践・研究の交流のためのワークショップ・研究会・大会を開催。2018年度よりジャーナル発行。

<https://www.kodomo-no-nihongo.com/>

- ・2017年度より文部科学省委託「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」（公益社団法人日本語教育学会受託）調査研究本部代表として事業を実施。
<https://mo-mo-pro.com/>
- ・2020.2021年度 文化庁「日本語教育人材のための研修プログラム普及事業 児童生徒に対する日本語教師【初任】研修」（公益社団法人日本語教育学会受託）日本語運営委員長として、研修を実施。

【著書】

- ・齋藤ひろみ（監修）・板谷ひさこ（著）（2022）『6カ国語のわくわく絵ずかん 学校のことば アジア編/ヨーロッパ編』ほるぷ出版
- ・齋藤ひろみ・人見泰弘（2018）「外国人の子どもたちの言語・文化の継承」石井正己編『世界の教科書に見る昔話』三弥井書店
- ・小島勝・白土悟・齋藤ひろみ編著（2016）『異文化間に学ぶ「ひと」の教育（異文化間教育学大系 第1巻）』明石書店
- ・齋藤ひろみ・池上摩希子・近田由紀子（2015）『外国人児童生徒の学びを創る授業実践—「ことばと教科の力」を育む浜松の取り組み』凡人社
- ・齋藤ひろみ・今澤悌・花島健司・内田紀子（2011）『外国人児童生徒のための支援ガイドブック—子どもたちのライフコースによりそって』凡人社
- ・齋藤ひろみ・佐藤郡衛（2009）『文化間移動をする子どもの学び—教育コミュニティの創造に向けて』ひつじ書房
- ・川上郁雄・石井恵理子・池上摩希子・齋藤ひろみ・野山広（2009）『「移動する子どもたち」のことばの教育を想像する』ココ出版
- ・齋藤ひろみ（2005）『外国人児童生徒の「教科と日本語」シリーズ 小学校「JSL 社会科」の授業づくり』スリーエーネットワーク

(様式4)

<対応可能学校種>

小・中・高等学校

<遠隔での指導助言> ※いずれかの□にチェックを記入してください。

対応可 対応不可

<その他(国等の委員歴等)>

- ・学校における JSL カリキュラムの開発にかかる協力者会議本部会議委員・社会科部会とりまとめ
- ・『外国人児童生徒の受け入れの手引き』作成協力者
- ・「外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント DLA」研究推進委員
- ・日本語教育学会 文部科学省委託事業「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」2017～2019 調査研究本部代表
- ・東京学芸大学 文部科学省委託「高等学校における日本語指導体制整備事業」(2021)の企画開発会議座長

<関連URL>

- ・子どもの日本語教育研究会 <https://www.u-gakugei.ac.jp/~knhongo/>
- ・文部科学省委託事業「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム事業」
<https://mo-mo-pro.com/>
- ・文部科学省委託事業「高等学校における日本語指導体制整備事業」
<https://www.u-gakugei.ac.jp/~knhongo/>
- ・公益社団法人 日本語教育学会 <http://www.nkg.or.jp/>

<講師として担当可能な内容>

別紙「講師として担当可能な内容(モデルプログラム「養成・研修の内容構成」対応)」のA～Nの書く欄に、◎または○を付けてください。

※別紙に○を付けていただいた内容は、一覧表に整理して文部科学省ホームページに掲載いたします。

※ 本様式は文部科学省ホームページに掲載いたします。